

環境と技術

講義情報	
講義名:	環境と技術
教員:	山崎 友紀
単位:	2
カテゴリ:	経済学部

開講情報	
キャンパス:	多摩
開講時期:	後期
開講学年:	
昼夜区分:	共通
曜日・時限:	

授業の到達目標及びテーマ

環境と技術の調和に関する知識、とりわけ種々の環境問題解決のための科学技術に関し、理解することを目標として、環境問題の原因と対策についてケーススタディを交えながら考察してもらう。

授業の到達目標及びテーマ(Webのみ)

環境と技術の調和に関する知識、とりわけ種々の環境問題解決のための科学技術に関し、理解することを目標として、環境問題の原因と対策についてケーススタディを交えながら考察してもらう。

授業の概要と方法

授業ごとに、環境技術に関する記事やコラムなどを配付資料から読んでもらう。
環境問題が如何に改善されることが期待されるか、など考察を深めてもらう。

授業の概要と方法(Webのみ)

授業ごとに、環境技術に関する記事やコラムなどを配付資料から読んでもらう。
環境問題が如何に改善されることが期待されるか、など考察を深めてもらう。

授業計画

1. 環境と技術の概要
2. 人口の動向と地球の将来
3. 経済と環境の関係
4. 環境問題の量的・質的变化
5. 公害問題
6. 化学物質による健康被害
7. 室内環境問題
8. 地域環境問題
9. 大気環境問題
10. 水環境問題
11. 土壌環境問題
12. 廃棄物問題
13. 地球環境問題

14. 資源エネルギー問題ならびに食糧問題
15. まとめ

授業計画(Webのみ)

1. 環境と技術の概要
2. 人口の動向と地球の将来
3. 経済と環境の関係
4. 環境問題の量的・質的变化
5. 公害問題
6. 化学物質による健康被害
7. 室内環境問題
8. 地域環境問題
9. 大気環境問題
10. 水環境問題
11. 土壌環境問題
12. 廃棄物問題
13. 地球環境問題
14. 資源エネルギー問題ならびに食糧問題
15. まとめ

テキスト

自作プリントを配付する。

参考書

「複合汚染」(有吉佐和子、新潮社)
「廃棄物とのつきあい方」(鹿園直建、コロナ社)
「リサイクル 一回るカラクリ止まる理由」(安井至、日本評論社)
「現代化学産業論への道」(田島慶三、化学工業日報社)
など多数。適宜授業中に紹介する。

成績評価基準

期末試験を60%、課題の取組みや出席点を40%として100点中の60点を合格とします。

成績評価基準(Webのみ)

期末試験を60%、課題の取組みや出席点を40%として100点中の60点を合格とします。

情報機器使用

課題の配付等で授業支援システムを利用します。

PRINT

POWERED BY
INTERLECT ocampus 3